

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24530160

研究課題名(和文) 暴力に抗するラテンアメリカ社会：リージョナル・ガバナンス構築の視点から

研究課題名(英文) Latin American Society against Violence: from point of view of Regional Governance

研究代表者

松下 冽 (MATSUSHITA, Kiyoshi)

立命館大学・国際関係学部・教授

研究者番号：50229465

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、ラテンアメリカ各国における市民社会と民主主義が様々な種類の「暴力」から挑戦を受けている現実を踏まえ、この「暴力」とそこから生じている「不安」を市民主導型の安全保障の構築を通じて克服し、市民社会と民主主義の防衛・発展・深化を如何に進めるのか、この問題を課題とした。とりわけ、グローバル化と新自由主義の影響と密接に結びついた今日の「21世紀型暴力」は、地域社会のあらゆる領域に浸透し、また、国境を越えた拡がりを持っている。それゆえ、ローカルなレベルでの民主的なガバナンスの構築を基盤とし、国境を越えるリージョナル・ガバナンスとの連携を形成する必要性が確認された。

研究成果の概要(英文)：After authoritarian and military regimes, political movements to establish democratic rule and civil society were experienced extensively in Latin American countries. On the other hand, much of the regions now suffers from pervasive violence including human rights violations, gangs, drug trafficking, police corruption and so on. The World Bank's World Development Report 2011 focuses on the linkages between conflict, security and development, and emphasizes the coexistence of democracy and violence. So this research analyzed ways of overcoming the challenges posed by various violence through the establishment of multi-level governance based on local/national/regional/global social movements' connections and networks.

研究分野：比較政治学

キーワード：越境型暴力・犯罪 民主的ガバナンス 人間の安全保障 リージョナリズム 国家－市民社会関係 急進的ポピュリズム アソシエーション 新自由主義型グローバル化

1. 研究開始当初の背景

ラテンアメリカでは、「暴力」が歴史的にも広範囲に行われてきた。しかし、本研究課題が対象とするのは、ラテンアメリカにおける「暴力」一般ではない。軍事政権や抑圧的政治体制の厳しい時代をくぐり抜け、民衆の草の根的な社会運動や異議申し立てを基盤に民主化を獲得し、市民社会の発展と民主主義の確立を追求してきたラテンアメリカ諸国がこの間、新自由主義とグローバル化の展開と関わる多様で複雑な「暴力」(犯罪マフィアの多角化、人身売買、ドラッグ・トラフィッキングと違法ドラッグ、違法伐採、武器輸出、サイバー犯罪、資金洗浄、極右武装組織、犯罪マフィア)に脅かされていた。

こうした「暴力」は市民社会や政治空間に拡大し、とくにローカルな空間やコミュニティに浸透し、社会の全般的軍事化をも引き起こしていた。この諸困難に対応し克服するために、市民は市民社会や民主主義を一層発展させることで「人間の安全保障」を確保できるか、ラテンアメリカはきわめて重大な状況におかれていた。以上の政治的・社会的背景は研究レベルでまだ十分に分析されていなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ラテンアメリカ各国における市民社会と民主主義が様々な種類の「暴力」から挑戦を受けている現実を踏まえ、この「暴力」とそこから生じている「社会的不安」を市民主導型の安全保障の構築を通じて克服し、市民社会と民主主義の防衛・発展・深化を如何に進めるのか、この課題をローカル・ガバナンスの形成を基盤とし、リージョナル・ガバナンスとの連携構築の視点から検討するものである。

3. 研究の方法

本研究の課題を遂行するために、新自由主義とグローバル化が引き起こす様々な社会的・政治的・経済的インパクトを踏まえ、暴力や犯罪の発生原因や背景、その社会への浸透のメカニズム、市民社会と社会運動を基盤にしたそれへの対抗・克服戦略と「人間の安全保障」の形成、そしてガバナンス構築の必要性と可能性を実証と理論の両面から検討した。

(1)研究方法の第一は、理論的な整理と再考である。「市民社会」、「民主主義」、「越境型暴力」、「国家の強靭さ」、「ガバナンス」、「市民主導型の安全保障」、「参加」、「アソシエーション」、「ポピュリズム」、「リージョナリズム」といった基本的概念の再検討が必要となった。それぞれの概念は独立したものと把握するのではなく、相互に関連させることが不可欠である。

(2)以上の基本的概念の再検討とラテンアメリカの「暴力」との連関性を多様な側面か

ら具体的に検討されなければならない。そこで、現地調査による実態把握が不可欠となり、政治体制の類型化に基づいた複数の国の訪問の機会を設けた。

第1に、新自由主義政策および NAFTA (北米自由貿易協定) による経済の分極化や越境型犯罪・暴力などのリージョナル化の諸問題を抱えるメキシコにおける現地調査。

Mercosur (南米南部共同市場)をはじめ UNASUR (南米諸国連合)、ALBA (米州ポリバル代替統合) など目的と性格の異なるリージョナリズムが並存する南米諸国、とりわけブラジルとアルゼンチンを中心に据えた。

また、ローカル・ガバナンスと市民社会および民主主義との関係を考察するためにブラジルのポルト・アレグレ市に注目した。

左派的傾向が強い政権における政治空間のダイナミズム、そして政治主体の複雑な対抗・協力関係を考察するために、ベネズエラ、エクアドルなどを調査した。

4. 研究成果

本研究において、以下の研究成果を挙げる事ができる。

(1)ラテンアメリカの暴力と犯罪により市民社会と民主主義が深刻な危機に直面していた。とりわけ、新自由主義型グローバル化が市民生活に与えた負の影響、すなわち「人間の安全保障」に関わる経済的・社会的基盤(貧困、失業、ライフラインの破壊、教育や社会保障、移民など)の喪失、そして法の支配の軽視が暴力と犯罪の背景に横たわっていた。それは越境犯罪(テロ、人身売買、違法伐採、違法ドラッグ、武器輸出、サイバー犯罪、資金洗浄などの問題群)に典型的に見出されるように、地域住民の日常生活への脅威と不安を生み出している。

(2)域内各国の市民社会および国家・政治社会の脆弱性が暴力や犯罪に重要な関係が見出される。すなわち、犯罪、紛争、暴力、腐敗などに対する市民社会による解決・克服能力の潜在力には政治空間や市民社会の柔軟性と強靭さが関係していた。

(3)上記の点とも関わって、暴力や犯罪への対応には、市民生活の基盤であるローカルなコミュニティからの取り組み、すなわち、市民主導型の安全保障構築が重要になる。これは、市民社会における多様なアソシエーションの活動が、政治社会における諸アクター(政党や官僚)との協力関係、シナジー関係を維持し、発展させられるか、この点が重要であった。

(4)越境型暴力や犯罪が日常化している今日、監視社会や管理社会の論理と現実に取り込まれることなく、市民主導型の安全保障の構築をナショナル、リージョナル、グローバルな安全保障の形成と、またそれら各レベルのガバナンス構築や連携の構想のなかに位置づけることが不可欠である。

(5)したがって、今日の越境型暴力にはリ
ージョナルなガヴァナンスを意識的に構築
する努力が要請された。メキシコの「正義と
尊厳をもった平和の行進」(MPJD)による国
境を越えた運動への呼びかけ、南米における
民衆によるリジョナル・ガヴァナンスの動
き、さらには世界社会フォーラムのような運
動などを包含する重層的なガヴァナンス構
築のなかに今日の暴力と犯罪に立ち向かう
多様な要素が見られた。

(6)『世界開発報告(WDR)2011』の中心的
メッセージは、「暴力の連鎖を打破するた
めには、市民の安全と正義、及び雇用を提供
するための正当な制度と統治を強化するこ
とが決定的に重要である」ということである。
そして、「人間の安全保障」概念をベースに
した地方・国家・地域・国際機関がそれぞ
れの役割を果たす「多層的なアプローチ」の
有効性を強調している(WDR,2011:4)。これは、
本研究課題がきわめて適切かつ時宜にかな
っていることを示唆するものであろう。その
意味でも、ラテンアメリカにおける暴力と犯
罪をめぐる諸問題に本研究は貢献している。
(7)ポスト新自由主義を探求していたラテ
ンアメリカの「左派」政権においても多くの
諸問題と限界が露呈する今日、ポピュリズム
に訴えることなく、市民主導型の安全保障構
築を前提とした「国家-市民社会」関係を再
考すること、この枠組みのなかで越境型の暴
力や犯罪を埋め込む構想が今後重要になる
と思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

松下 洌「ラテンアメリカ「新左翼」は
ポピュリズムを超えられるか？(下) ポス
ト新自由主義に向けたガヴァナンス構築の視
点から」『立命館国際研究』、査読無、27 卷
3号、2015、pp.71-116

松下 洌「ラテンアメリカ「新左翼」は
ポピュリズムを超えられるか？(中) ポス
ト新自由主義に向けたガヴァナンス構築の視
点から」『立命館国際研究』、査読無、27 卷
2 号、2014、pp.51-83

松下 洌「ラテンアメリカ「新左翼」は
ポピュリズムを超えられるか？(上) ポス
ト新自由主義に向けたガヴァナンス構築の視
点から」『立命館国際研究』、査読有、27 卷
1 号、2014、pp.1-29

松下 洌「民主的ガヴァナンス構築と
「人間の安全保障」 グローバル・サウス
からのアプローチ」『立命館国際研究』、査読
有、26 卷 1 号、2013、pp.129-161

〔学会発表〕(計 2 件)

松下 洌「ラテンアメリカにおけるポスト
新自由主義対応の比較研究：国家- 社会関係
の視からの新左翼政権分析」共生経済学研究
センター 新潟大学(共生経済学研究会)(新
潟県新潟市)2014 年11 月6 日

松下 洌「途上国における「暴力」を考え
る視点 『世界開発報告2011』を中心に」途
上国研究会(立命館大学国際地域研究所プロ
ジェクト)立命館大学(京都府京都市)2014 年
10 月4 日

〔図書〕(計 6 件)

松下 洌「『南』から見たグローバル化と
重層的ガヴァナンスの可能性」諸富徹編『資
本主義経済システムの展望(岩波講座現代
3)』岩波書店、2016、311(167-202)

松下 洌「市民社会と民主主義は越境型暴
力に耐えられるか NAFTAにおける平和的
ガヴァナンス構築」(松下洌・山根健至
編『共鳴するガヴァナンス空間の現実と課
題：「人間の安全保障」から考える』晃洋書
房)2013、287(186-207)

松下 洌「交差するガヴァナンスと「人間
の安全保障」 グローバル・サウスの視点
を中心に」(松下 洌・山根健至編著『共鳴
するガヴァナンス空間の現実と課題』晃洋書
房)、2013、287(1-22)

松下 洌「グローバル・サウスにおけるガ
ヴァナンス構築 民主主義と社会運動の視点
から」(藤田和子/松下 洌編著『新自
由主義に揺れるグローバル・サウス いま
世界をどう見るか』ミネルヴァ書房)、
2012、382(113-135)

松下 洌「グローバル・サウスを見るひとつ
の視点」(藤田和子/松下 洌編著『新自
由主義に揺れるグローバル・サウス いま
世界をどう見るか』ミネルヴァ書房)、2012、
382(1-11)

松下 洌『グローバル・サウスにおける重
層的ガヴァナンス構築 参加・民主主義・
社会運動』ミネルヴァ書房、2012、全342
頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<講演会>

松下 冽「今、ラテンアメリカどこにいるのか、どこに向かうのか？」

（新潟大学経済学部合同ゼミ講演会）

新潟大学経済学部（新潟県新潟市）

2014年11月5日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松下 冽（Matsushita, Kiyoshi）

立命館大学国際関係学部 教授

研究者番号：50229465

(2) 研究分担者

（ 無 ）

研究者番号：

(3) 連携研究者

（ 無 ）

研究者番号：